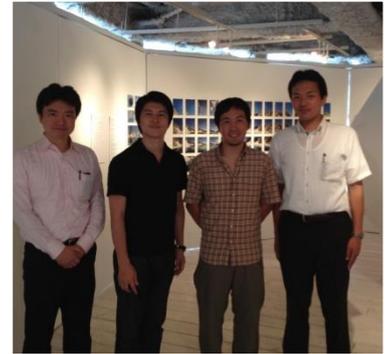




自民党豊島区議団

細川 正博

【豊島区議会レポート】 Vol. 9
～平成25年第2回定例会～



志教育の実践をする同志と

平成25年 8月発行

【はじめに】

6月の都議会議員選挙では自民党の候補者全員が当選、7月の参議院議員選挙でも自民党・公明党の与党へ過半数を大きく超える議席をお預けいただきました。

政治の安定のために「ねじれ国会」の状態を解消させて欲しい、と訴えて沢山の議席を得た以上、もう言い訳はできません。まずは喫緊の課題であるデフレ脱却を果たすための政策を続け、景気回復を確かなものにしなければなりません。

無論、経済政策だけを行えば日本がよくなるわけではありません。自主憲法制定の議論を含め、教育、安全保障、社会保障、エネルギー…難しい問題は山積しておりますが、一つ一つ前に進める必要があります。

【平成25年第1回臨時議会】

5月23日（木）の臨時議会において、正副議長や所属委員会が決まりました。議長には竹下ひろみ議員（自民党）、副議長には高橋佳代子議員（公明党）が選出。

今年度、私が所属する委員会は下記の通り（豊島副都心開発調査特別委員会には全員が所属）。

常任委員会：都市整備委員会 特別委員会：清掃環境調査特別委員会

今年度は、常任委員会・特別委員会ともに道路整備や都市開発、清掃関係などで、前職（建設業界向けの専門誌の調査員）での知識が生かせる分野です。

【平成25年第2回定例会】

6月13日（木）～7月5日（金）の会期で、第2回定例会が開かれました。

【主な議題】

- ・平成25年度豊島区補正予算第2号（補正予算額は1.25億円。特定財源0.4億円（防犯設備経費の補助や公園整備の経費等）、一般財源0.85億円（認可保育園改築・改修経費が当初見込みより増えたことによる補助金の増額等））
- ・豊島区地域区民ひろば条例の一部を改正する条例
（区民ひろば仰高の新設、区民ひろば池袋の移転に伴う条例改正） ほか

私が所属する都市整備委員会へは、議案2件が付託、報告事項が2件ありました。条例改正により公園となった旧児童遊園を禁煙とする条例改正（児童遊園は全面禁煙、公園は喫煙所以外が禁煙）、区有道路を民間へ払い下げする議案の2件でしたが、全会一致で可決しました。

【一般質問】

会派を代表して一般質問を行いました。以下、抜粋です。

※豊島区議会 HP (<http://www.city.toshima.lg.jp/kugikai/>) の TOP 頁左下の「会議録検索」にて会議録、「インターネット議会中継」にて質疑の動画をご覧いただけます。

私にとっては3回目の一般質問となりますが、今回も教育の分野に重点を置いています。

私は日本の抱える多くの問題の根本は教育にあると考えております。

「道徳無き経済は罪悪であり、経済無き道徳は寝言である」と言います。

技術や知識だけを会得するのではなく、人格教養を育てていく教育を並行していかなければなりません。人生は判断の連続です。その物事の判断基準こそが、人格教養に裏づけられた規範なのです。

人は一人では生きていけません。

歴史の縦糸を意識すれば、今が存在するのは当たり前のことではないと気付きます。

「ありがとう」の反対言葉は「当たり前」です。自分さえよければよい、ではなく、「先義後利」の考えを持ち、「感謝の人間関係」を築けるようにしていかなければなりません。



◆行政改革

〈マイナンバーについて〉

Q. マイナンバー法成立により、予算措置を含め、必要な準備は？

A. 個人情報保護への体制整備、連動する情報システムの改修等が必要。場合によっては来年度予算から経費を計上する。

Q. マイナンバー導入に伴う、区民サービス向上への影響は？

A. 総合窓口や福祉総合相談フロアでの対応が中心となる。特に福祉総合相談では、対象者に適切なサービス等の情報を知らせる「攻めの行政」ができる。

◆防災

〈防災対策基本条例について〉

Q. 地域防災組織の位置づけられるのは、従来は町会や自治会だったが、PTA や地域活動団体など「コミュニティを基盤とする活動の拠点を単位として結成された組織」が加わった。範囲を拡大した意義と目的は？またその役割を明確にする時期の目途は？

A. 町会・自治会を補完するための組織として地域の事業所等を視野に入れ、地域防災組織を位置づける。役割について、今年度を目途に震災対策本部において検討する。

Q. 地域活動団体の具体例として、東京防災隣組の第一回認定団体となった「南大塚防災まちづくりの会」だが、としま未来文化財団の組織替えにより活動が宙に浮く事態となった。今後の同会の位置づけは？

A. 同会の活動は、新たな地域防災組織を考えていく上で先駆的な内容であり、注目すべき活動を行っている団体と認識。新たな地域防災組織のあり方を検討していく中で位置づけを明確にしていく。

◆介護予防

〈運動機能の向上について〉



区高連の体力測定の様子

Q. 豊島区高齢者クラブ連合会（区高連）が実施している体力測定は介護予防の観点から非常に意義深いと考えるが、運営費の補助についてはどう考えているか？

A. 体力測定は、有用で意義あるもの。補助については、運営主体の高齢者クラブ連合会の中で、体力測定の位置づけや効果検証等を踏まえて検討いただき、区の支援のあり方を検討していく。

Q. 単に測定だけにとどまるのではなく、運動指導もできるトレーナーなどの専門家の活用も積極的に検討していくべきと考えるが？

次ページへ ➤

▼つづき

A. 専門家の協力を得て、個々人の状況にあった運動機能を向上させる最適なプログラムを進めていくことは有効であり、今後、高齢者クラブ連合会の意向等も確認しながら可能な限り連携を図っていく。

Q. 専門家の下で体力測定の結果を活用して運動機能の向上を図るようなプログラムを区民ひろばで展開していければ、高齢者が無理なく参加でき効果が期待できる。介護事業における区民ひろばの活用方法、運営費の補助については？

A. 7月から区民ひろば南大塚で体力測定結果を活用したプログラムを試行する。講師謝礼等の経費は、区が負担する。事業の拡大については参加者の受け止めや効果等を検証して検討。



区民ひろば南大塚で展開中の「らくらく運動教室」

▼キャリア教育

<2分の1成人式、立志式について>

Q. 区の教育における「キャリア教育」の位置づけと内容は？

A. 小学校から中学校までの9年間を見通して教育課程に位置づけ、小学校では「2分の1成人式」「人生の先輩から話を聞く会」など、中学校では職業調べや職場体験などを行っている。

Q. 「2分の1成人式」の区内における実施状況と全校での実施はいかがか？

A. 10年間の自己の成長の振り返りを通して、よりよい生き方・在り方を考える有効な取組であると認識。23校中17校で実施。教育課程の編成主体は学校にあるものと受け止め、教育委員会として全小学校に実施を求めているが、「2分の1成人式」の有効性に鑑み、各校に優れた実践の情報を提供していく。

Q. 「立志式」の意義と区の導入については？

A. 由来は江戸の元服に端を発しており、現在でもこの年齢期は少年期から青年期へ成長する人生の大切な時期。「立志式」は有益さを評価する声がある一方、授業時間数の確保や保護者の協力が得にくいケースがあるなどの問題点も指摘されている。本区での実施はなく、職場体験や自分の夢を発表するなどの取組が同様の主旨で実施。キャリア形成にとって有効な一つの手段だが、導入は慎重に研究を進める。

<ふるさと教育について>

※米沢市の道徳教育をふるさと教育の具体例として挙げ、郷土愛を育むふるさと教育の必要性を述べた。



米沢市の道徳郷土資料

Q. ふるさと教育についてのこれからの展望は？

A. 豊島区には「ソメイヨシノ」、明日館、宣教師館、染井霊園など、郷土に誇れる文化や伝統、歴史、文化財が多数あり、ふるさとを愛する心情や、ふるさとで学んだことを誇れる日本人、国際人を育てるため、これらを活用した学習を展開。今後の展望では、新庁舎屋上に完成する「豊島の森」を活用して、かつて根津山に生息した動植物の生態系を学ぶプログラムを開発し、健康・環境・地域学習などを組み合わせた、義務教育9年間を見通した「豊島ふるさと学習プログラム」として体系化し活用する。

Q. ふるさと教育を行う上で、なぜふるさと教育を展開するのかななどの目的を共有する必要がある。教える側への研修についてはいかがか？

A. ふるさと教育を一層充実させるためには、教える側である教員が郷土の歴史、伝統、文化についての知見を拡げ、指導に磨きをかけることが大切であると認識。今後も研修内容の改善・充実に努めるとともに、趣旨やねらいを全教職員に徹底し、指導の充実を図る。



根津山とは？

現在の南池袋公園を含む周辺一帯の旧称。かつては豊かな雑木林となっており、森のように見えた。1945年（昭和20年）4月13日の城北大空襲で豊島区は消失面積70%という大規模な空襲に見舞われ、多数の死者を出した。南池袋公園で行われている「根津山小さな追悼式」は、この時の供養。新庁舎の「豊島の森」は、この根津山と同じくらしいの高さに位置するため、当時の動植物の生態系を学ぶことに適す。

▼食育

・弁当の日について

Q. 「豊かな人間性」と「健やかな心と体」を育成する為の実践方法として、「弁当の日」を区でも実施してはいかがか？

A. 各学校で特色を生かした食育指導を展開している。「弁当の日」の実施は食育の取組の一環として評価できる。各学校に対して「弁当の日」の実践の意義について積極的に情報を提供する。

Q. 実施に当たっては、学校現場の理解だけでなく保護者の理解を得るのも重要。「弁当の日」の講演会を豊島区主催で実施し、学校や保護者への理解を促してはいかがか？

A. 企業やPTA主催で食育に関する講演会や多様なイベントが既に開催され、効果を上げている。今後、学校、家庭・地域及び関係機関との連携を図り、情報を共有し、効果的な実施方法について検討。



「弁当の日」とは？

香川県綾川町の滝宮小学校の竹下和男校長が2001年に始めた試み。給食の代わりに保護者が作った弁当を食べる、という日ではなく、子供自身が作った弁当を持っていく日。献立作り、買い出し、調理、弁当箱詰め、片付けの全てを子供が行い、保護者も先生も、その出来具合を批評も評価もしないという約束で行う。2013年5月27日現在、1200校以上で実践されていて、大きな広がりを見せている。

【地域活性化勉強会@区民ひろば南大塚】

6月28日（金）、まちづくりの専門家として著名な木村俊昭先生（東京農業大学教授、コミュニティプロデューサー）をお招きして、勉強会を行いました。

木村先生の講演の他、「商店街の連携とまちづくり」と題したパネルディスカッション（パネラーは木村先生、高野之夫豊島区長その他、南大塚ネットワーク、巣鴨地藏通り商店街振興組合、トキワ荘通り協働プロジェクト、二番街商店会振興組合（札幌市）のそれぞれの代表。コーディネーターは細川。）も行い、それぞれの抱える課題と解決方法について認識を深めました。



今後の連携に繋がる事を期待します。急な呼びかけに応じて下さった皆様、感謝いたします！

※8月28日（水）、南大塚にて「まちづくり報告会」を開催いたします。

細川正博による区の施策等のご報告や、区民ひろば南大塚「らくらく運動教室」のトレーナーによる「介護予防」の考えに基づく運動の説明や座りながらできるストレッチの実践など。詳細はお問い合わせください。

【編集後記】

プロのトレーナーと取り組む介護予防目的の「らくらく運動教室」、東洋思想家の田口佳史先生のご指導の下での人格教養教育プロジェクトの地域での実践、NPO法人GRAとの「こころざし教育」の試み、木村俊昭先生をお招きして地域の方と連携し2度開催した「地域活性化勉強会」など、提言したことが少しずつ進んできました。

地域のコミュニティを活性化させ、感謝の人間関係を互いに築いていくことを目指し、これからも提言と実践をしていきます！

※月1回程度、活動報告のメールマガジンを作成しています。ご希望の方はメールや電話でお問い合わせ下さい。

子供達の世代へ責任ある政治を！！

発行責任者：細川 正博

住所：〒170-0005

東京都豊島区南大塚 1-51-17

TEL/FAX：03-3945-2530

e-mail：info@hosokawamasahiro.jp

公式サイト：<http://www.hosokawamasahiro.jp/>

Twitter：@toshimahosokawa

Facebook：<http://www.facebook.com/hosokawamasahiro>

※ご意見、ご感想、ご要望をお寄せ下さい。